第 4 節　検討項目整理

本節では、既に設定していた検討項目と本年度の調査、事例集、研修、e ラーニング教材から得た知見を参考に作った項目を組み合わせ、来年度の講座プロトタイプにおいて必要となる実施モデル構築に関する検討項目を提示する。

まず、「受講者募集」大項目には、「募集広告」と「業界連携」に関する中項目に分かれ、「メディア活用」、「個別企業の選定」、「業界団体」という小項目を具体化して検討する。

次に「講座実施」に関して検討するべき中項目としては、「運営体制」、「教育機関連携」、「業界企業連携」といった小項目を持つ「実施体制」が挙げられる。また、「初期コスト」、「運用コスト」や「収支計画」といった項目を含む「予算確保」、「学校」、「外部」といった項目を含む「実施場所」といったものが挙がる。

「教育プログラム」に関しては、まず「レディネス」や「役職・職種」という「受講者属性」がある。つづいて「知識学習」と「スキル学習」のそれぞれの「学習目標」、さらに「スケジュール」、それから「曜日」、「時間帯」、「内容」を検討する「スクーリング」、また「テキスト」、「映像」、「ドリル」に関する「教材」、最後に「履修基準」、「試験形態」、「試験頻度」といった「評価手法」がある。

「e ラーニング」の項目では「実施形態」の「ブレンディング比率」がある。また、「基本機能」、「学習支援機能」、「管理機能」といった「機能」、そして、「SNS」や「ビデオ会議」について検討する。「補助機能」といった項目が挙がる。

次ページにおいてこれらの検討項目を表に整理した。来年度はプロトタイプの講座を実施した実証実験を行うために、これらの項目についてその選択肢、手法を、実施委員会及び分科会で確定する。

大項目	中項目	小項目	選択肢、手法
受講者募集	募集広告	メディア活用	WEBサイト作成、Facebookのターゲット広告
	業界連携	個別企業の選定	調査に協力いただいた企業に連絡
		業界団体	コンテンツ業界の団体 事例調査で扱った書籍及び事例集の作成元や研修及びセミナーの運営元
講座実施	実施体制	運営体制	現委員会参画メンバーと連携する専門学校
		教育機関連携	ゲーム等のコンテンツ系学科、ビジネスマネジメント系学科を持つ専門学校、日本語教育機関
		業界企業連携	研修運営企業、教材及びeラーニング開発企業
	予算確保	初期コスト	事業期間終了後に現実施体制にさらなる新規メンバーをも募りつつ連携組織を発足し検討する
		運用コスト	
		収支計画	
	実施場所	学校	連携する専門学校から借用
		外部	連携企業から借用、会議室のレンタル
教育 プログラム	受講者属性	レディネス	外国人材をマネジメントしている/する予定 外国人材を採用する方針がある 外国人材と共に働いている/働く予定 スクーリングに参加する時間を確保できる
		役職・職種	現場マネージャ、人事採用担当者、経営者、外国人材の同僚
	学習目標	知識学習	eラーニングにより提供されている情報を理解し、スキル学習及び自身の業務において活用する
		スキル学習	知識学習や自身の経験から得た知見を活かし、外国人材との業務において円滑にマネジメントを行う技術を獲得する
	スケジュール	期間	6ヶ月、9ヶ月、12ヶ月
	スクーリング	曜日	平日週数回、土、日、土日
		時間帯	夜（平日）、午前または午後（週末）、終日（週末）
		内容	ケーススタディ、ディスカッション、ロールプレイ、講義
	教材	テキスト	市販教材、既存教材のアレンジ、新規開発
		映像	スライドを使った説明、俳優を使った再現形式（事例学習）、 イラストを用いた形式
		ドリル	単元ごと（学習前、後）、評価試験に一元化
	評価手法	履修基準	<eラーニング>映像教材を飛ばさず見る、確認テスト回答 <スクーリング>出席、参加態度
		試験形態	CBT方式、アンケートによる自己評価
		試験頻度	1単元ごと、1科目ごと、1区分ごと
e ラーニング	実施形態	ブレンディング比率	eラーニング：スクーリング＝４５ｈ：１５ｈ
	機能	基本機能	学習項目リスト、映像教材、レジュメ
		学習支援機能	参考文献リスト、関連リンク集、連携SNS、クイズ
		管理機能	定期的な進捗度に関するメッセージ送信 進捗度の可視化（グラフまたは%表示） ログイン履歴の管理
	補助機能	SNS	Facebookページ作成
		ビデオ会議	Skype、Zoom